第15号
平成25年9月

沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology

平成25年度入学式の模様

目　次

1.校長より
～人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者へ～……2
2.総務主事・教務主事あいさつ……3
3.学生主事・寮務主事あいさつ……4
4.後援会長・事務部長あいさつ……5
5.第1学年主任・第2学年主任より……6
6.学科長より……7～9
機械システム工学科・情報通信システム工学科
メディア情報工学科・生物資源工学科・総合科学科
7.専攻科長より……9
8.４年目を迎えた技術者教育プログラムとJABEE中間審査…10
9.学生相談室より……10
10.図書館・保健室より……11
11.地域連携推進センター活動紹介……12
12.キャリア支援室活動紹介……12
13.学生会より……13
14.寮生会より……14
15.SCORE!・留学生紹介(ビリグト　ビリグサイハン)……15
16.宜野座村文化センターがらまんホールとの連携事業・俳句大賞 ‥16
17.サマースクール開催……17
18.オープンキャンパス参加者数の推移と参加者の様子……17
19.平成25年度
沖縄県高校総体結果について……18
全九州高校総体結果について……19
九州沖縄地区高等専門学校体育大会結果について……19
20.平成25年度人事異動について……19
21.平成25年度(後期)行事予定表……20

国立 沖縄工業高等専門学校
〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古905番地
TEL:0980-55-4003　FAX:0980-55-4012
HP:http://www.okinawa-ct.ac.jp/

－人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者へ－

校長　伊東　繁

日頃より本校の学校運営ならびに教育・研究活動に関し、ご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

また奨学支援基金の設立をはじめとする本校創立10周年記念事業に対し、多大なるご協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。これまでの歩み、そして今後の10年を見据え、人材育成と地域に根ざした教育研究活動の充実に取り組んでまいります。

今年４月、これまでの地域共同テクノセンターの機能をさらに強化し、『地域連携推進センター』を発足いたしました。「産学連携部門」、「知的財産部門」、「生涯学習部門」を設けており、産業界、教育研究機関とのさらなる連携強化に努め、技術的なご相談や共同研究、事業化への取り組み、社会人を対象としたセミナーや講習会、生涯学習講座の開設等、本校の研究成果を広く活用いただけるよう進めてまいります。また産業界のニーズや地域の抱える課題が実践的な教育の現場に反映されるよう、双方向のコミュニケーションがより積極的に行われるよう取り組んでまいります。

さて、学生諸君は夏季休業を迎えていますが、比較的時間の余裕のある時期こそ、しっかりと自主学習を行い不得意科目に取り組むと同時に、なにか新しいことにチャレンジしたり、読書の時間を取ったりと見聞を広めることにも眼を向けて欲しいと思います。いま社会で活躍できる技術者は、かつて高度成長期に需要のあった中堅の技術者像とは全く異なっています。高度な専門的知識や技能に加え、グローバルな見識を持ち、コミュニケーション能力とさまざまな状況に柔軟に対応できるような総合的な力が求められています。また企業活動や大学・研究機関での研究は、多国籍に渡って行われています。本校は、英語学習にも力を入れていますが、海外への研修や海外インターンシップ、留学生との交流などにも是非積極的に参加してほしいと思います。また外国の人と交流する際には自国の文化、歴史などの教養や一般的な知識が重要であることに気づくと思います。授業のなかで疑問に思うことや、より興味のあることがあれば、各担当の先生方を遠慮なく訪ねていただきたいと思います。

また上級生においては、卒業研究や就職、進学に向けてしっかりと取り組み、卒業までの限られた時間を無駄にせず、卒業後に進むそれぞれの道で活躍できる素地を在学中に身に付けていただきたいと思います。

本校の理念にあるように「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者」として、広い見識と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献できる力強い人材へと成長してほしいと願っております。

我々教職員も一丸となって、よりよい教育環境の実現を目指してまいりますので、今後共ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

総務主事あいさつ

総務主事　杉本　和英

今年度に総務主事・副校長を拝命いたしました情報通信システム工学科の杉本和英でございます。

今回はじめてのご挨拶となります。総務主事として校長を補佐し、本校学校運営の中でも、組織の編成・運営管理、予算計画ならびに執行管理・将来計画・教育研究環境および関連施設の管理・自己点検・評価といった業務にあたっております。

先日開催いたしましたオープンキャンパスには、例年をはるかに上回るご参加を頂き、教職員との交流と合わせまして貴重なご意見も頂戴することができました。いよいよ本年9月には10周年記念行事を控え、最終調整を進めているところでございます。多くの保護者の方々からも募金のご協力を頂きまして、この場をお借りし御礼申し上げます。沖縄高専奨学支援基金の設立を中心に、国際社会で活躍するグローバル人材育成に向け、学生支援活動の諸施策に充当させて頂きたいと思っております。

また、今年度は、一昨年に認定を受けました日本技術者教育認定（JABEE:Japan Accrediation Board for Engineering Education）の中間受審の年であり、現在、鋭意準備を進めております。本校が推進する技術者教育が国際基準に則した教育であると認められる、大変重要な認定であります。並行して、学生のみならず教職員の国際感覚の涵養とコミュニケーションスキルの向上に向け、本校と連携協定を締結している海外のポリテク・大学等の高等教育機関（台湾・中国・タイ・シンガポールをはじめ計11校を数える）を中心とした短期留学生の受入れと派遣への取り組みにも注力しております。

これらの活動を通して地域および日本のものづくりに貢献すべく、より多くの優秀な学生を輩出できる教育体制の構築を目指しております。後援会・協力会・教職員の皆様のご協力に支えられながら、諸施策を推進していきたく思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教務主事あいさつ

教務主事　平山　けい

昨年度に引き続き教務主事・副校長を拝命しております生物資源工学科の平山けいです。毎年本誌で申し上げていることですが、本校は、人々に信頼され開拓精神あふれる技術者の育成により社会の発展に寄与することを理念としている高等教育機関です。本校での学業や経験を通して身につけた知識や技術を活かし、卒業していく皆さんが社会に出たとき、世の中に貢献が出来る人間に育っていることが本校の大きな使命です。この大きな使命を果たすためには、在校生の皆さんは、自ら目標を持って必死で学んでいくことが必要です。また、この学校に集った学生の皆さんがお互いに議論し、磨き合いながら技術や知識を習得していかなければなりません。しかし、大変残念なことに、本年度の本校は、授業中の不要な携帯・スマートフォーンの使用が数多く見受けられています。再三再四の注意喚起にも関らず状況が変わらないため、6月中旬に授業中の携帯使用禁止を通知しています。本来、本校は学生のみが集う場所ですが、自分自身の行動に責任を持つことの出来ない学生とは呼べない生徒が増え始めているのも現状です。授業中のスマートフォーンや携帯は、ほとんどがゲーム、Line、メールのやり取りなどで、授業には一切関りのないことばかりです。Lineに関しては、広島での悲惨な事件での使用と発端が報道されています。

【保護者の皆様へのお願い】

保護者の皆様には、日頃本校に対するご支援をいただき心から感謝申しあげます。

7月30日から前期末試験が始まり、この高専便りと共に成績表がご自宅へ送付されます。保護者の皆様に置かれましては、お子様の成績や学校生活に関してどうぞお子様と一緒に話し合いの時間を持っていただけるようお願いいたします。成績が低いのは、授業態度の悪さ、授業に集中していないことに起因しているのではないでしょうか？日ごろの生活習慣はどのような状況でしょうか？幸い6月中旬に授業中の携帯使用禁止を通知してから授業中の携帯等の使用は少なくなりました。しかしながら、ゲームに対する欲求を制御出来ずに、ゲームやLine依存症・中毒になっていると思われるような学生も多々見かけられます。学習時間帯や消灯以降ゲーム等に興じ、真夜中から明け方近くまでゲームを行っている学生が居るのも事実です。このような状況では、もちろん授業には身が入らず、当然のことながら、授業中の居眠りも引き起こしています。お子様にスマートフォーンを持たせることは本当に必要でしょうか？適切な使用についても話し合っていただきたく存じます。今一度成績表を前にお子様と充分に向き合っていただけるようお願いいたします。

【在校生のみなさんへ】

本校は、県内外の皆様の温かく大きなご支援とご協力をいただきながら、今春ようやく10期生を迎え入れ、創立１０周年を迎えました。学生の皆さんには、先輩方が作り上げた沖縄高専の校風をしっかりと引き継いでいただきたいと思います。先輩方の県内外の優良企業への就職や国立大学への編入や大学院への入学は、先輩方が互いに磨きあい、一生懸命目標に向かって励んだ結果勝ち得たものであることを忘れないで下さい。学びを忘れた学生が簡単に行けるところではありません。どうぞ、今この沖縄高専という学校で友達に出会い、一緒に学べることに感謝し、自分たちの夢や将来を語り合い、切磋琢磨してくれることを心から願います。

学生主事あいさつ

学生主事　伊波　靖

今年度より学生主事を務めることになりました。よろしくお願いいたします。

今年度も4月の体育祭を皮切りに高校総体、高校野球選手権沖縄大会への参加や九州沖縄地区高専体育大会への参加など学生の課外活動が活発に行われています。高専体育大会では女子バスケットボール部が優勝し、水泳部も女子がバタフライで1位になるなど全国大会へ出場することとなりました。今年度から大会等への参加に際して、原則として現地集合・現地解散をお願いしており、保護者の方々には送迎等をはじめとして、大会への応援や派遣費の補助など後援会からのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

学生の生活面に関しましては、学生の携帯電話やスマートフォン等の携帯端末の利用に関してLINE等のSNS上におけるいじめや授業中の携帯端末の利用など、いくつかの問題が発生しております。学校としても授業への携帯端末の持ち込みを禁止し、メール等での注意喚起や主事講話での注意などを行っておりますが、ご家庭でも携帯端末の正しい利用に関して話し合いを持っていただきますようお願いいたします。

車両通学に関しましては、4月に交通安全講話を実施し、6月には学生会を中心とした沖縄高専交通安全期間を設定し交通安全啓蒙活動を行って参りました。しかし、交通事故の発生や、通学時のオートバイの二人乗りや危険運転をしている学生について教職員からたびたび報告があがっており、その都度、学生を呼び出して指導を行っております。車両通学をしている学生の保護者におかれましては、ご家庭で交通安全について話し合いを持っていただきますようお願いいたします。

「良き学生、良き技術者、良き社会人」として学生を導いていくためには、学校とご家庭の両輪で教育を行っていく必要があります。今後とも学校へのご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

体育祭（エイサー）

寮務主事あいさつ

寮務主事　玉城　龍洋

2年間の寮務主事補を経て、今年度から4代目の寮務主事となります。全国でも屈指の大きさを誇る学生寮ですが、学生寮委員会や寮務係職員、指導員、そして宿日直にあたる全教職員とともに管理運営に全力を尽くしていきます。よろしくお願いいたします。

沖縄高専は今年創立10周年を迎え、学生寮も同様に開寮10年目の節目となりました。この10年間で寮設備の経年劣化だけでなく、寮生の考え方や生活様式も開寮当時とは変わってきています。それに伴い、学生寮の管理運営体制も対応・改善しながら変わり続けています。

そのひとつとして、多様化した寮生に対応するために専属の指導員による宿日直制度を開始しました。専属の指導員が宿日直にあたることで、寮生と接する時間が増え、きめ細やかな指導・対応が可能となりました。

また、1年生の学習を支援するために、学習時間帯を利用した1年生夜間勉強会も始めました。勉強会では、成績優秀な高学年の先輩がティーチングアシスタントとして配置され、一人の勉強では解決できない疑問点をその場で解決しながら、1年次の学習を補助しています。

このような管理運営の改善を続けながら、今後も寮生が技術者として育つために必要な環境を整備していく所存です。

新年度が始まり3カ月が経ちますが、残念なことに大小様々な問題も起きています。多くは安易な考えから起こることですが、その結果、大きな代償を払うことを自覚しなくてはなりません。規則、制限の多い学生寮の生活は、多感な年頃の学生達にとって窮屈な空間かもしれません。しかし、学生寮での生活は社会に出る前に、規則の遵守、協調性、自律・自制の必要性を学べる重要な機会でもあります。ご家庭におかれましても、学生の普段の寮生活の話題に触れていただき、高専入学の目的を今一度見つめ直す機会をお持ちください。

最後に、学生寮独自の10周年事業も寮生会を中心に計画されています。シーサーや記念植樹など色々と検討しているようです。まだ詳細は決まっていませんが、次の10年に向けて気持ちを新たにできる素敵な事業になると期待しています。

1年生夜間勉強会

後援会長あいさつ

後援会長　大濱　安典

沖縄高専は今年、創立１０周年の節目の年を迎え、９月２１日には、名護市民会館において記念式典執り行なわれます。沖縄高専設立より関わられた方々におかれましては感慨深いものがあるのではないでしょうか。後援会からも関係者の皆さまに対し深く感謝申し上げます。

さて、沖縄高専は平成２４年１１月に行われた「パソコン甲子園」において２部門でグランプリを受賞しました。これまでにおいても平成１９年、２０年グランプリ、２１年、２２年準グランプリと受賞していますが、２部門でのグランプリ受賞は、パソコン甲子園において初の快挙となり、全国からも注目を集めました。

また、第２４回「伊藤園お～いお茶新俳句大賞」では１９名の入賞者、２４名の入選者、更に３度目となる「優秀学校賞」を受賞し、学生のみなさんが、理化学だけでなく文学においても優秀であることが証明されました。これもひとえに学生を指導していただいた先生方の多大なご尽力のおかげであります。

近年は、国と県が若年求職者に対し様々な運動を繰り広げ、僅かながら就職しやすい環境になったと言われていますが、大手企業の新卒者採用枠は、まだまだ低く狭き門となっています。しかし、沖縄高専においては、学生と専門の先生と一体となって希望する職種への道筋を立て、就職へとつないできた結果、多くの卒業生が、各業界で活躍しています。中には、新卒者採用人事を任される卒業生もいると聞きました。今後も卒業生のさらなる活躍に期待したいと思います。

後援会は、学生のみなさんが様々なことにチャレンジできるよう応援することを基本とし、会員の皆様と共に「明るく、楽しく、情報の交流ができる後援会活動」を目指しております。本会活動の趣旨をご理解いただきご協力ご助言を賜りますようお願いします。

平成２５年７月吉日

後援会総会：伊東校長講演会の様子

事務部長あいさつ

事務部長　仲地　善則

琉球大学から沖縄高専に赴任して、４ヶ月たちました。４ヶ月間勤務した感想を書きたいと思います。

以前にも他の高専に勤務したことがありますが、大学から高専に異動して驚くことは、学生が挨拶してくれることです。大学のキャンパス内では、ほとんどの学生は、知らない人には挨拶はしません。また、自分が高校生の頃は、ちゃんと挨拶ができなかったなあと思い出し感心しています。

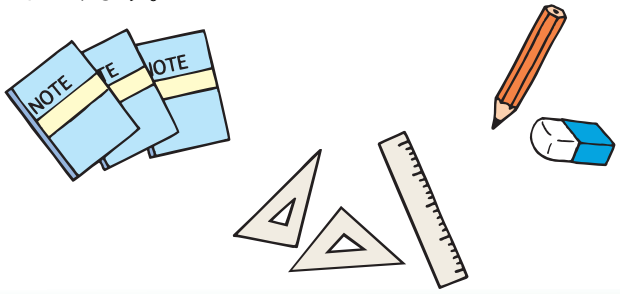
入学式では、みんな堂々としておりました。中学から進学してくるため、まだ幼さを残している学生が多かったように思います。親元から離れて暮らすため、初日は泣く子もいると聞いておりますがが、ここでの５カ年間で見違えるように成長していくことと期待しています。

４月２９日にあった体育祭は、企画から学生がやっており、高校の体育祭と比べると整然としたものではなかったですが、みんな楽しそうにやっており、見ていて、私も楽しくなりました。

本校のオープンキャンパスは、本校進学希望の中学３年生だけが参加するというものではなく、小学生でも自由に参加できるので、高専を目指す動機付けが早まり、高専を知ってもらうためにもいいことではないかと思います。また、各学科の体験コーナーなどでは、学生が積極的に参加しており、頼もしく思いました。以上が感想です。

沖縄高専は、今年で創立１０周年を迎えました。全国では、最後にできた高専ではありますが、ロボコン大会、プロコン大会、パソコン甲子園などでも活躍し、他府県の高専に負けない伝統を築き上げております。今後も、沖縄県内で、本校が活躍していることをアピールし、知名度を上げる努力をしていく所存です。

学校では、９月２１日の１０周年記念事業の開催に向けて準備を進めております。１０周年記念事業への皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



第１学年主任より

第１学年主任　澤井　万七美

入学式からスタートした高専生活も半期が過ぎ、中学生から高専生へと脱皮をとげつつあるように思われます。

4月27日には体育祭、6月19日にはスポーツ大会、7月23日には寮祭と、イベントを通じてさまざまな人と触れ合う場が目白押しでした。こうしたイベントをきっかけに、未経験の委員や役職にチャレンジしたり、勇気を出してクラブに入部したり、という学生も数多くみられます。勉学はもちろん、課外活動に参加することで得られるものは実に大きなものがあります。仲間と過ごす時間は、きっと生涯忘れられない宝物になることでしょう。

また、別の角度から視野を広げるための講演会も、いくつか開催されました。5月1日の「キャリア支援室長講話」では、“5年後・10年後の自分を考えてみよう”という問いかけに、それぞれ将来への思いを巡らせている様子でした。5月15日には「薬物に関する講演会」、同22日には「性に関する講演会」に、それぞれ講師をお招きしました。6月5日の「サイバー犯罪講演会」では、現職の警察官の方から“未成年でも被害者・加害者になりえること”について、具体例を交えてお話を頂きました。携帯電話やスマートフォンの向こう側にいる相手への想像力を欠かしてはならない、人への思いやりを何より大切に―ということは、7月10日の「学生主事講話」でも改めて注意喚起がなされました。夏休みの間、羽を伸ばし過ぎてトラブルに巻き込まれないようにということは、御家庭でもよくお話を頂ければと存じます。

学生たちの成長のためには、御家庭との連携が欠かせません。今後とも本校への御理解ならびに御尽力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学生主事講話の様子

２学年の様子

第２学年主任　下郡　剛

２年生が入学してから１年半が経ちました。入学当初、不安と緊張のためか、静かでおとなしかった皆さんも、今ではすっかり学校に慣れ、例年通り、賑やかで活気に溢れた学生生活を過ごしているようでまずは安心しています。

沖縄高専の良い点の一つに、先輩・後輩のつながりが密であることがあげられると思っていますが、学生寮での共同生活をはじめ部活動、また体育祭・高専祭などのイベント、授業の中では学科別LHRなどで学年の枠を越えた交流を持てることが理由として挙げられるのではないかと思います。２年生には、先輩から多くのことを学び、自らの進路選択の一助とし、かつそれを後輩に伝えていって欲しいと希望します。

さて、楽しい学生生活を送ることはとても素晴らしいことですが、他方で、高専２年生は「中だるみの学年」ともいわれます。度を超えた緊張感の喪失は、本来の目的意識の減退をもたらします。高等専門学校は義務教育ではありません。また、ほとんどの同年代の友人達が通っている高等学校＝中等教育機関でもありません。必ずしも行かなければならない場所ではない。一人ひとりに、高専進学を望んだ理由があるはずです。今一度、その理由を想い出し、学生生活を楽しいだけではない、有意義なものにしてもらいたいと希望します。

多くの２年生が、３年半後、この学校を出て行きます。３年半は長いように感じられるかもしれませんが、年齢とともに時間の感覚は短くなっていきます。後になって振り返ってみれば、大部分の人が「あっという間」と感じるでしょう。楽しく、かつ充実した学生生活を送り、将来の皆さんにとって、沖縄高専が良い想い出の場所であって欲しいと思います。

薬物乱用防止に関する講演会

キャリア支援室長講話の様子

学科長より

機械システム工学科

機械システム工学科長
眞喜志　隆

皆さんは機械システム工学科は、どのようなことを学習する学科と考えて入学したのでしょうか？。機械と名のつく学科で学ぶ範囲は、非常に広いものがあります。何かものを作る時、どのような材料を使えばいいのか、どのように加工するのか、どのように設計するのか、どのように動かすのか、どうやって作れば（創れば）いいのか、これらを順序立てて学んでいくのが機械システム工学科です。広い範囲を学んでいくため、おそらくは一番勉強がきつい学科かも知れませんが、将来の進路もまた広い分野に進んでいける可能性のある学科です。ものを作る（創る・造る）分野には、機械系の技術者が必ず必要になります。どのような分野にも進んでいけるのが、機械システム工学科の強みです。

１年生の皆さんは、それまでとは大きく異なる環境の中で勉強していくことに不安を覚えていたかもしれません。今は、だいぶ学校にも慣れてきている様子が感じられます。夏休み明けに、また気分の落ち込みがあるかもしれませんが、本校に入学した気持ちを思い出してください。２年生からは専門の講義も増えていきます。わからないことをわからないままにしておくと、大きくつまずきます。わからないところを整理して、担当教員に聞く等の早め早めの行動をお願いします。３年生からは、漠然とで構いませんから進路を意識して行動してください。将来自分は何をしたいのか、何になりたいのかをすぐに決める必要はありませんが、考え始めて情報を集めるのは大切なことです。４年生の後半には、はっきりと進路を決めておく必要があります。進路の活動も年々変化していきますが、４年生の終わり頃から、進路に関する活動は本格化します。そのときに何も考えていないようなら、本当に苦労します。５年生は卒業研究に頑張ってください。高専での５年間は、長いようですが、あっという間に過ぎていきます。長い人生の中では、短い５年間かもしれませんが、15歳から20歳という密度の濃い時間を過ごすことになると思います。皆さんは、悔いのない高専生活を送ってください。

本機械システム工学科の教員12名・技術職員４名も、きめ細かな教育と指導を行い、本学科の学生が技術者の卵として卒業していけるよう一層努力していきます。地域に根差した学科・高専として進んでいけるよう、お互い一緒に楽しく頑張っていきましょう。

情報通信システム工学科

情報通信システム工学科長
比嘉　勝也

「まず、はじめること」

沖縄高専は開学１０周年を迎えました。４月には１０期生の入学生を迎え、３月には５期生の卒業生を輩出しました。情報通信システム工学科の卒業生は情報分野・電気電子分野および制御分野を中心に県内外さらには海外で活躍しています。開学からこれまでほぼ進路決定は１００％となっており、学生諸君の日頃の努力と保護者の皆様の学生諸君への深い愛情、沖縄高専の教職員のサポート無くしては達成できません。

沖縄高専の学生は、本科５年間、専攻科２年間を含めると長い人で７年の間、専門科目や総合科目から基礎的な知識を修得します。さらに卒業研究や専攻科での特別研究は、研究テーマが抱える各種の問題を認識し解決するための方法を模索し実行し検証することを修得します。これら修得した技術や知識は、社会に出てその知識がすぐに役立つというものでは無いと私は感じています。それでは何のための知識でしょうか？それは卒業生・専攻科修了生の皆さんが技術者として新たな一歩を踏み出した時の基礎となるもので、新たな知識や創造や発見の源になる大切な知識だと考えています。高専で学ぶことは学生諸君が社会に出るときの基礎作りであり、高専を卒業したそのときからその基礎の上に高専生活よりもはるかに長い技術者研究者としての学びと創造と発見の時間が始まると考えています。

高専に入学した１０期生の皆さんは、これから５年間または７年間を高専で生活するにあたってどのようなことに気をつければよいのでしょうか。昨年の高専だよりに“ちょっぴりの意識”というものをご紹介しました。高専では勉強だけでなく生活の中には様々な出来事があり、その１つの何かに意識を持つことで、さまざまなチャンスが身の回りにあることに気づかれるという内容でした。そのチャンスを生かすも自分、見過ごすのも自分です。毎日同じことの繰り返しと感じて高専生活に疑問を感じていたら、それこそさまざまなことやチャンスを見過ごしていないでしょうか？

“やる気”が高専生に求められていると思います。“やる気”と言っても大げさなことではありません。見過ごしていた何気ない小さなことに気を留め、やってみることです。高専生活で“小さなやる気”を積み重ね、失敗してそのときは凹んでも、次には立ち直ってさらにやってみる。上手くいけば誰にも見られないようにヤッターと小さくガッツポーズしましょう。その重ねた分だけ皆さんの基礎になると思います。その積み重ねた基礎の量は人さまざまです。他人と比べてもしようがないことです。

また高専生活で悩みや問題を抱えている人は、まずは“小さなやる気”を出して身近な人に話してみることです。でも、どうしたら良いかわかりませんよね。しかし今の状況を変えられるのは他人ではなく自分です。“小さなやる気”を出し身近な人に相談することで解決への一歩が踏み出せると思います。“小さなやる気”を出すことができたら心の中で小さくガッツポーズして自分を褒めてあげてください。まずはそこからはじめましょうか。（終）

メディア情報工学科

メディア情報工学科長
角田　正豊

お陰様で、今年3月にメディア情報工学科本科から40名、専攻科から4名の学生が巣立っていきました。4月に10期生41名（女子学生11名）が入学してきました。10期生です。真新しい校舎に1期生を迎えたのが、ほんの昨日のような気がしますが、沖縄高専も10年目を迎えました。開校当時はメディアという名前から、放送関係の技術を学ぶ学科と思われるふしもありました。本学科では、低学年で学ぶコンピュータの基本技術を土台に、コンピュータを用いて色々な機器を動かす技術、コンピュータを用いて画像や映像を処理加工する技術、コンピュータを用いて世界規模で情報を共有する技術を学びます。「コンピュータを用いて」がキイワードとなり、コンピュータを使いこなし様々な応用を生みだす技術者の育成を目指しています。学内での教育にとどまらず、全国レベルのコンテスト参加や各種資格取得も積極的に奨励しています。昨年度は本学科の学生が、パソコン甲子園において2部門で優勝するなど目覚ましい活躍をしてくれました。

新設の学校として開校時には最新の教育設備を導入しましたが、10年が経って陳腐化を否めなくなってきています。今年3月から約1年をかけて、プログラミング実習用機器、CG等コンテンツ作成実習用機器、ネットワーク構築・管理実習用機器、ロボット実習用機器等の更改を進めています。開校当初に導入した機器と今回の機器の仕様の大きな隔たりに、この10年の情報通信技術の進歩を見せられ改めて驚いています。このように非常に早いスピードで発展する業界をリードできる技術者には、将来を予見できる目と、今の技術の本質を見極める目が必要です。この二つの目を持った、メディア情報工学科生の育成に努めてまいります。ご理解とご協力を引き続きよろしくお願いします。

生物資源工学科

生物資源工学科長
平良　淳誠

先の東日本大震災に伴う原発事故に端を発し、改めてエネルギー問題が見直されています。尖閣諸島問題にみられるように、エネルギー、即ち資源の保有・活用には自国だけではなく他国との絡みがでてくるため、しばしば国際問題に発展します。しかしながら、資源問題には常に取り組まなければならない、国の重要課題であります。

生物資源工学科では、生物資源を機能性食品や薬用化粧品などに活用するために必要な生化学、分子生物学、微生物学などの多分野に亘る基礎科目、実習をカリキュラムに取り入れて、社会に貢献できる技術者育成を目指しています。特に卒業研究（本科）と特別研究（専攻科）では、生物資源の活用を目指した研究課題に真摯に取り組み、中には企業と連携した実用的な研究課題もあります。今年度は、本校設立から10周年を迎えます。当初手さぐりで始めた卒業研究も、今では亜熱帯特有の生物資源を有効活用し、製品開発に技術提供できる成果を上げています。また、研究成果を国内外に発表し、国際誌に掲載されるまでに至っています。専攻科修了後に大学院に進学し、研究活動を継続する学生もいます。企業に就職した卒業生は、製造管理に従事しエキスパートを目指して頑張っています。

今年度の本科卒業生は進学希望者（専攻科、編入学）が多く、日々、勉学に励んでいます。一方で、本科と専攻科に県内企業に就職を希望している学生も多くみられ、活発に就職活動を行っています。少しずつではありますが、本校卒業生の県内企業への就職希望者数も増えてきております。県内企業のさらなる雇用支援を頂ければ、幸いです。

これからも、社会で活躍できる人材輩出に努めていきたいと思いますので、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

専攻科生の学会発表

総合科学科

総合科学科長
成田　誠

総合科学科では自然科学や科学技術の理解・応用のための基礎知識・学力を身につけるための教育を行っています。つまり多くの高等教育機関と同様、沖縄高専の授業科目も所謂一般科目と専門科目に大別されており、この一般科目を担当するのが総合科学科の教員です。現在総合科学科には、文科系(国語2名、英語5名、社会1名)、理科系(数学5名、物理学1名、地学1名)、体育系(健康科学2名)の計17名の教員が在籍しています。

担当する学年は主に第1, 2学年の低学年であり、授業をはじめとする学習指導のみならず、担任として学生生活指導もその任務となります。実際、17名中16名が主担任及び副担任に就きます。沖縄高専では第1, 2学年において混合学級制(各学科から約10名ずつ1クラス40名4クラスを構成)を採用しており、学科の垣根を越えて学生同士が交流できるのみならず、我々総合科学科の教員も学科の区別なく学生と関わる機会が与えられています。教授する内容が一般科目、基礎科目であるが故当然ではありますが、この沖縄高専に在籍する全ての学生と必然的に関わるのは総合科学科の教員のみで、ここに大きな充実感と共に責任を感じ得ずにはいられません。

私見を少々。基礎科目の重要性を、基礎を学んでいる最中の者が理解することは難しい。恐らく、基礎を「(専門に比べて)簡単なこと」、「つまらないこと」、「専門では不要になること」などと思っているからでしょう。残念ながらこれらは全て誤解であったことが自ら確認できます。高学年になって専門科目を学習するようになってから、後悔と共に。故に楽観することなく、悔ることなく飽くなき反復練習によって基礎固めをしてもらいたい。一方で、低学年時の成績の良し悪しに一喜一憂することはないと思います。大学受験などが控えているわけではないのですから、「この日までに100点満点中80点取らねばならない」といった学問を狭く捉えること(ペーパーテスト至上)は無意味です。卒業するときに科学技術者として真っ当な知識と能力と倫理観を備えていることこそ重要です。それには前述同様、日々の努力以外にない。そしてその努力は必ず身を結びます。時間がかかったとしても。

結びに、総合科学科教員一同教員に尽力して参りますので、特に低学年の保護者の皆様とは吉凶禍福何れの際にも接する機会が多いかと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

専攻科長より

専攻科長
三枝　隆裕

沖縄高専の専攻科は、学校教育法（第10条119条）に基づき、平成21年2月に認定専攻科として認められ、融合複合教育を目的に「創造システム工学専攻」の１専攻として、本科の各専門学科に対応する形で、「機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コース」の４コース体制となっています。

沖縄高専では、平成21年4月に1期生を専攻科生として迎え、平成23 年3月に7年間の一貫教育を受けた第1期生修了生27名を輩出しました。専攻科修了生には、大学評価・学位授与機構より学位授与試験を経て、1期生から3期生まで受験者全員に学士（工学）の学位が授与されました。

専攻科の教育目標は、(1)知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する、(2)創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する、(3)専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する、(4)地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する、となっています。

複合的・実践的、かつ専門的なカリキュラムを通じ、複合的な専門性を備えた創造的実践的な課題解決型の技術者を育成することを目指しています。さらに、本科と同じ教員による一貫した研究指導、現実的な課題の解決策探求教育、PBL教育、他学科との共同作業などで創造的実践力の育成を図り、学力と人格に優れた世界で活躍できる技術者の育成に努めています。

本科5年の後にさらに2年間学ぶ専攻科のメリットとしては、(1)より高度な専門性を磨ける、(2) 本科卒業研究の延長で研究ができる、(3)大学より学費が安い、(4)入学後の時間的ロスが少ない、(5) 同じ仲間と学べる、(6) 学校生活（寮, 部活, 各種イベント）が継続できる、(7)学位（大卒）の資格を取れる、(7) 大学院に推薦入学で入れる、(8) 専門性を生かした就職が可能である、等が挙げられます。

実績としましては、平成25年3月に修了した3期生23名のうち15名がアイシン精機、旭化成、リクルート等に就職し、進学では8名が、推薦枠も活かして、京大、名古屋大等の大学院への入学が達成されました。

本科の学生の皆さんには、専攻科の魅力と利点を理解して頂き、多くの志願者をお待ちしております。

４年目を迎えた技術者教育プログラムと JABEE 中間審査

JABEE 対応委員長　姉崎　隆

沖縄高専では、各専門学科の本科４年生・５年生と専攻科１年生・２年生の計４年間の教育課程を利用して、技術者に必要な「技術力」、「創造・実践力」、「理解・表現力」を養成するための４つの技術者教育プログラム（機械システム工学プログラム、情報通信システム工学プログラム、メディア情報工学プログラム、生物資源工学プログラム）を設置しています。学位の審査に合格して学位記を授与され、専攻科各コースの課程を修了した学生は、本人の希望により各コースの定める技術者教育プログラムの修了生として修了認定されます。この技術者教育プログラムの設置は本校設立の計画段階から既に計画されていましたが、平成24年４月27日に日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering:通称JABEE）から、４つの技術者教育プログラムの内容が社会の要求する知識や能力の水準を満たしていると正式に認定されました。これにより、平成23年3月に修了した専攻科一期生に遡り、沖縄高専が、技術者教育プログラムの修了認定を毎年度行ってきています。

本校の技術者教育プログラムがJABEEによって認定・認証されたことは、単に専攻科修了生に対する認定証授与が可能になったことに留まりません。JABEE認定基準は技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定等の考えに準拠して作られています。ワシントン協定（Washington Accord）は現在２０カ国の主要先進国間でかわされ、技術者教育の実質的同等性を相互承認しています。このため、海外留学や海外で就職する際に、専門レベルを立証する公的論拠として用いることが可能となりました。これは、国内留学や国内就職においても同じことが可能です。

今年、上述の修了認定開始年より３年が経過し、その後の経過を審査するJABEE中間審査を受審します。中間審査は、JABEEが指定する重点項目について実施されます。このため、JABEE対応委員会は、上記重点項目に沿った取り組みを本校全体の協力のもと、推し進めています。皆さんのこれまでの取り組み参加および協力に感謝申し上げる次第です。ただ、JABEEの認定で重要なことは、その教育機関が教育内容の改善を継続的に行っていることを認定条件としていることです。JABEE認定を受けた教育機関では、国際的に同等の技術者教育を行うための教員組織、教育設備、学生サポート体制などを整え、教育内容の改善を継続的に行うための仕組みを整えて、教育の質を保証・向上するための活動を行わなければなりません。社会の求める技術者に必要な知識や能力などの水準も社会の変化によって変わりますので、上述した重点項目のみならず、社会の変化に応じて教育内容を見直して、都度改善しなければならないのです。引き続き、皆さんの理解と参加および改善を積み重ね、世界に通じる沖縄高専を築きあげましょう。

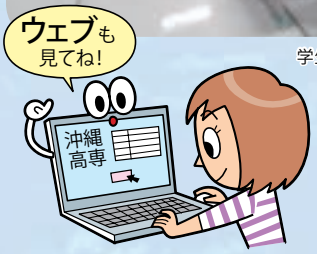
学生相談室より

学生相談室長　西村　篤

学生相談室（以下「相談室」）は、学生の学校生活を学生の権利擁護の観点から支援するための組織です。学校生活の中で、身近な友人や先生に気軽に相談しにくい問題を抱えた時、疾病・障害その他環境上の理由等による修学上の困難が生じている時、いじめやハラスメントに悩んでいる時、その他どのようなことでも、独りで悩まずに相談室を利用して下さい。相談室は常に学生の立場から問題の解決について一緒に考えます。学生のことについて保護者や教職員のみで利用することもできます。相談の秘密は厳守します。

詳しい利用方法は、保健室（電話：0980-55-4054、電子メール：hoken@okinawa-ct.ac.jp）に問い合わせるか、もしくは本校のウェブサイト http://www.okinawa-ct.ac.jp（トップページ＞教育・学生生活＞学生相談室）をご覧下さい。★平成２５年度からカウンセラー来校日が大幅に増え、カウンセリングを利用しやすくなりました。夏季休業中もカウンセリングを実施しています。★

学生相談室内の様子



図書館より

図書館では情報学から工学、自然科学等の専門書を中心に、小説や視聴覚資料、学術雑誌と様々なジャンルの資料が所蔵されています。それらを上手に活用することで、皆さんの高専生活はより充実したものになるでしょう。様々な考えや知識にふれ、楽しく有意義な生活を送ってほしいと願っています。

また、図書館は本校の学生・教職員だけでなく、一般の方々にも広く開放しています。やさしい英語でたくさん読む「多読」用の図書も現在約１万５千冊を所蔵しておりますので、英語の勉強をしたい方もどうぞお気軽にご利用ください。休業期以外の土曜日も開館しています。

図書館内の様子

○図書館の開館時間
【通常期】平日8:40～20:00　土曜9:00～17:00　日曜・祝祭日：休館
【休業期】平日8:40～17:00　土日・祝祭日：休館
○座席数：108席（延面積：740㎡）
○蔵書冊数：約6万3千冊（うち洋書約1万8千冊）、視聴覚資料 約1,550点
○雑誌：約590種（継続購入約90誌）
○新聞：8紙（うち英字新聞2紙）
○年間貸出冊数：42,436冊（平成24年度実績）
○学外者への貸出：ご希望の方へ「利用証」を発行します。申請書に必要事項を記入し、身分証を提示してください。
（図書館への連絡：直通0980-55-4037）

保健室より

まだまだ暑い日が続きますが、暑さに負けないように。長期休みで生活リズムが乱れることもあります。生活リズムを整える一つとして、よい睡眠をとるために次の項目を心がけてみては、どうでしょうか？

① 朝の光を浴びる
② 昼間に活動する
③ 夜は暗いところで休む
④ 規則的な食事をとる
⑤ 規則的に排泄する
⑥ 眠気を阻害する嗜好品（カフェイン、アルコール、ニコチン）や過剰なメディア接触を避ける

保健室は２人の看護師が変則で在室しています。メディア棟２階に保健室はあります。

保健室では、学生の傷病時の対応、定期健康診断、健康相談、健康診断証明書の発行、災害救済給付の手続き、学生相談室（保健室に隣接）との連携など行っています。健康・悩み相談、雑談、身長・体重・血圧計もありますので気軽に保健室へ足を運んで下さい。

又、不定期に保健室便りをメールで発信しています。
今回はどんなことが載ってるんだろうと興味を持ち、日頃の健康管理に役立ってほしいと思います。（看護師：高江洲・岸本）
（TEL：0980-55-4054　e-mail：hoken@okinawa-ct.ac.jp）

地域連携推進センター活動紹介

沖縄高専地域連携推進センターは、平成２５年４月１日に、これまであった地域共同テクノセンターを改編して設置されました。

地域連携推進センターは、旧センターの業務に加えて、「知的財産」及び「生涯学習」に関する業務を行っていきます。そして、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との連携・交流の推進、共同研究等による技術開発及び人材の育成に取り組んでいきます。

年間事業としては、沖縄高専フォーラム・情報交換会、月１回の技術相談会、月１回の企業説明会、共同研究、受託研究、受託試験、技術相談、出前授業、公開講座・生涯学習講座等、さらに、各種展示会への出展（沖縄の産業まつり、やんばるの産業まつり等）、知的財産セミナー等を実施します。

小学生向け出前授業の一コマ

公開講座（ﾐﾆﾛﾎﾞｯﾄﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ）の一コマ

沖縄高専フォーラムの一コマ

定期技術相談会の一コマ

キャリア支援室活動紹介

沖縄高専キャリア支援室は、学生のキャリア形成、学生・就職活動を支援することを目的として設置されています。キャリアアドバイザーによる個別面談、キャリア形成や就職・進路に関する各種セミナー等を通じて、学生のみなさんが、どのような進路があるかを知り、各自の進路を考え、決定していく過程のサポートを行っています。

キャリア支援室相談窓口

本校で開催されたインターシップ説明会・合同企業説明会

学生会より

平成 25 年度
学生会執行委員会

会長あいさつ　平成 25 年度学生会長　吉田 睦

今年度、学生会長の 4 年情報通信システム工学科の吉田睦と申します。
今年度より「世界一楽しい学校」という大きい目標のもと、
数十年後の未来につなげる伝統を創る事を目標とし活動を行っています。
世界一楽しい学校の定義とは、「学生一人一人が、学校が楽しいと思える」
学校だと考えています。
そのために「学生一人一人が沖縄高専を盛り上げよう・楽しくしよう」
そう思える学校を学生全体で創りあげていこうと考えております。
更に、この考えが伝統になり、数十年後に「世界一楽しい学校」
と思われる学校にしていけるよう、学生会一同精進してまいります。

体　育　祭

去る 4 月 27 日に本校グラウンドにて
第 8 回体育祭が開催されました。
今年は安全面の問題により
騎馬戦がなくなってしまうという
結果でしたが
各クラス一丸となって
熱い戦いを繰り広げました。

平成 25 年度 学生会執行委員会役員

会長	吉田 睦
副会長	奥平 ちずか
	國吉 和真
総務局長	渡辺 雄介
広報局長	座間味 侑也
風紀局長	金城 巧実
会計局長	小池 修司
渉外局長	岡田 匡平

高　専　祭

第 9 回を迎えることとなる高専祭。
今年で沖縄高専も10周年を迎えます。
各学級とも、例年にも増して気持ちを高め
それぞれの持ち味を生かした
出し物を用意します。
皆様のご来場をお待ちしております。

寮生会より

男子寮長
情報通信工学科　4年次
俵　　拓　朗

平成25年度男子寮長の俵拓朗です。昨年度より、男子副寮長として寮生会執行部に属していましたが、寮長となると格段に仕事が増えるのと同時に責任も重大になり、日々奮闘しています。

今年で沖縄高専と共に学生寮は10周年を迎えますが、他高専の学生寮とは違った構造など、様々な要因により、未だにうまく機能していない部分も多々あります。現在では、これまでの他高専の寮視察より得られたことを活かして、沖縄高専にも取り入れることができないかと、寮生会執行部一同で話し合いを重ねているところです。

また、新しいことに取り組むだけでなく、今までの問題点を少しでも改善できるように努めます。不便をお掛けすることもあるかと思いますが、その際には寮生会へご意見をいただければ幸いです。皆さんのご協力をよろしくお願いします。

女子寮長
生物資源工学科　4年次
島　袋　友　美

平成25年度女子寮長の島袋友美と申します。昨年度は副寮長を務めており、今年度も引き続き寮生会で仕事をしております。

さて、今年で沖縄高専は10周年を迎えます。とは言っても、他高専に比べればまだまだ若い学校です。機能が確立していない部分も多々有ります。この10周年という節目もあり、今年度は、寮生会の基礎的な運営体制をしっかりと固めることが目標です。そのために、今の寮生会をより寮生に近いものにして、寮生一人一人が学生寮を運営している、という感覚を身につけてもらえるようにしていきたいと考えています。

皆様の寮生活が快適で、素敵なものとなるように寮生会一同御尽力致しますので、よろしくお願いします。

寮生会活動報告

6月29日は、オープンキャンパスが開催されました。

学生寮では、中学生向けの寮見学ツアーを行い、多くの未来の沖縄高専生が来寮しました。

期末テスト一週間前の7月23日には、寮生にとって勉強の息抜きとなる、夏の寮祭が行われました。ダンス等の出し物やイントロクイズを、多くの寮生が楽しみました。豪華景品が当たる、抽選会も行われました。

前期はこれらのイベントを、企画広報委員会が中心となって運営しました。

体育祭

平成25年4月27日(土)

去る4月27日に本校グラウンドにて第8回体育祭が開催されました。

今年は安全面の問題により、騎馬戦がなくなってしまうという結果でしたが、各クラス一丸となって熱い戦いを繰り広げました。

高専祭

平成25年11月9日(土)
～10日(日)

第9回を迎えることとなる高専祭。

今年で高専も10周年を迎えます。各学級とも、例年にも増して気持ちを高め、それぞれの持ち味を生かした出し物を用意します。

皆様のご来場をお待ちしております。

"SCORE! Science in Okinawa 2013: Research for Enterprise"

平成25年3月16日（土）に沖縄科学技術大学院大学（OIST）で開催されました "SCORE! Science in Okinawa 2013: Research for Enterprise" にて本校生物資源工学科3年島袋友美さんと同じく生物資源工学科2年生宮里春奈さんのペアが優勝（1等賞）を頂くことができました。また、副賞としてOISTにてインターンシップができる権利とTOMODACHI SCORE ! Study Tour でサンフランシスコへ10日間研修旅行に行ってきます（9月5日－14日）。その事前ミーティングとして米国ルース駐日大使との面談も行いました。SFでは巨大バイオベンチャー企業やスタンフォード大学などへの訪問やアメリカの高校生との交流も予定されています。

留学生紹介

生物資源工学科
ビリグト　ビリグサイハン（モンゴル出身）

こんにちは、Biligt Biligsaikhanと申します。モンゴルから参りました。
沖縄高専に来る前は、緊張と不安はいっぱいでした。しかし、沖縄に来て先生方や事務員、寮生の皆と実際にみると、皆優しくて親切だったので不安や緊張が完全になくなりました。

学校が始まって講義や実験のとき先生たちとクラスの皆が優しく説明してくれたので授業や学校のイベントなどが分かりやすくて学校がどんどん楽しくなりました。沖縄高専の皆さま本当にありがとうございます。

また、学校の施設は非常に充実していて、勉強するための設備を全部施した学校だと思います。学校全体や学生の雰囲気も非常に良いです。

沖縄に来たばかりのとき色々分からなくて、困ったことが多々ありましたがやさしい先生・友達のおかげで、今はもうなれてきました。友達もたくさんできましたが、これから皆さんともっと仲良くなりたいです。よろしくお願いします。

「宜野座村文化センター がらまんホール」との連携事業

5月17日・18日にわたって、宜野座村文化センターがらまんホール様の御厚意により、沖縄高専生対象の特別講座、そして一般の方にも開放された「がらまんお出かけコンサート」が開催されました。

専攻科1年生（「日本語・日本文化論」履修者）向けの特別講座においては、がらまんホールの小越友也氏による芸術文化政策論が展開され、続いてジャズミュージシャンのドミニク・フィヨン氏、中村亮氏、高橋佳樹氏から音楽を通じた比較文化論をお話し頂きました。「あらゆるものがインスピレーションの源」（フィヨン氏）、「すべてのものに心をオープンに」（高橋氏）、「世界で勝負するには個性が必要」（中村氏）等のアドバイスに、学生たちは真剣に耳を傾けていました。

同日の夕方のコンサートには、学内外から多数ご参加を頂きました。中には「初めてライブでの演奏を聴いた」という学生もいて、アンケートからその感激のほどがよく伝わってきました。

演奏終了後、学生たちにレクチャーをしてくださったり、楽器に触らせてくださったりした上、楽器部のメンバーとの“共演”にまでお応えくださいましたことも、忘れられない一頁となりました。

翌日は、がらまんホールでのコンサートのリハーサル前に、小越氏によるホール業務レクチャーとバックステージツアーが開催されました。その後のコンサートでは、ホールスタッフ体験もさせて頂きました。

この度、多大なる御協力を賜りましたドミニク・フィヨン氏、中村亮氏、高橋佳樹氏、そして小越氏はじめ宜野座村文化センターの皆様には、この場をお借りして心より感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

小越友也氏による講義

ドミニク・フィヨン氏（右）

コンサート
（左からドミニク・フィヨン氏、高橋佳樹氏、中村亮氏）

学生たちとともに

伊 藤 園 お ～ い お 茶 新 俳 句 大 賞

第24回「伊藤園お～いお茶新俳句大賞」で「優秀学校賞」を受賞！

第24回「伊藤園お～いお茶新俳句大賞」で、三度目の「優秀学校賞」を受賞しました。「優秀学校賞」は5名以上の入賞者があった学校が受賞するもので、今回は全国で13校が受賞しています。網谷厚子教授の指導のもと、授業の一環として俳句を作成し、3年次以上の学生が本大会に応募しました。165万句以上の応募のなか、本校では19名の入賞者（都道府県賞、佳作特別賞）、24名の入選者（佳作）を輩出しました。

【受賞者】

「優秀学校賞」	入賞19名	
「都道府県賞」	砂川　尚哉	平良美奈子
「佳作特別賞」	仲村実菜美	山内　雅大
同	宮城　李夢	知名　優希
同	高宮城優之介	仲嶺　真豪
同	玉城　由基	松田　祥揮
同	伊良部寛規	呉屋　　航
同	比嘉　早紀	豊見盛雄貴
同	米須　清敬	川上　泰喜
同	佐事　　武	川満　成遂
同	大城　聖也	

【受賞者】

「佳作」	入選24名	
金城　廣太	上原　野亜	呉屋　　諄
田本　一真	長嶺　　伸	佐渡山史矢
新川　翔也	新垣　京香	与那覇　萌
上江洌有希	屋冨祖晃司	新屋　誠栄
高宮　聖奈	崎濵　秀哉	仲宗根浩一
親泊　由理	宇江城貴仁	知念　央久
長嶺　真実	我那覇和奎	山城　菜月
福井　隆浩	前津　勇輔	松田　拓磨

沖縄高専サマースクール２０１３　開催

本校では、７月２７日（土）の平成２５年度サマースクールを開催しました。
今回のサマースクールは、中学校３年生を対象に模擬授業を行なうことで沖縄高専への理解を含め、進路選択の参考にしてもらうことを目的としているもので、今年度は、２０４名に参加していただきました。
当日は、一般科目（英語・国語・数学・物理から１科目選択）の授業の後、４つの学科（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）に分かれ、学科ごとに実験・実習等を含む授業が行なわれました。また、昼食時間には、同校レストランでの寮食体験を通じて、学生寮での生活の一端を体験していただくとともに、施設見学を行ないました。また、保護者を対象に、寮見学ツアーを行ないました。

数学（一般科目）の授業風景

英語（一般科目）の授業風景

国語（一般科目）の授業風景

物理（一般科目）の授業風景

機械システム工学科の授業風景

情報通信システム工学科の授業風景

メディア情報工学科の授業風景

生物資源工学科の授業風景

オープンキャンパス参加者数の推移について

（機械）サンドブラスト型枠作成の様子

（情報）電子回路工作の様子

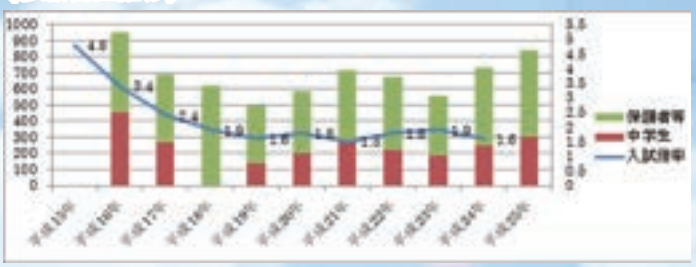
（メディア）学生の作った作品紹介

（生物）学生による研究紹介

学生課　教務係

平成20年度　583人【中学生201、保護者222、教員3、その他157】
平成21年度　717人【中学生272、保護者269、その他176】
平成22年度　672人【中学生224、保護者310、その他138】
平成23年度　556人【中学生184、保護者272、その他100】
平成24年度　728人【中学生249、保護者434、その他45】
平成25年度　838人【中学生304、保護者338、その他196】

【参加者数推移】



平成 25 年度沖縄県高校総体の結果について

平成２５年５月２５日（土）～３０日（木），６月１日（土）～６月５日（水）の期間中開催された「平成２５年度沖縄県高校総体」において，本校からバスケットボール部，卓球部，サッカー部，バドミントン部，弓道部，陸上競技部，ハンドボール部，テニス部及び自転車部が出場し，県内の各高校と対戦しました。

大会では各部ともに健闘し，日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。特に自転車部は個人ロードレースにおいて優秀な成績を収め，九州大会に出場いたしました。

平成 25 年度沖縄県高等学校総合体育大会における本校の競技別の結果は以下のとおりでした。会場まで応援に来ていただいた保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします

競　技	競技結果	
バスケットボール（男子）	２回戦まで	
バスケットボール（女子）	１回戦まで	
弓道（男子）	団体戦	予選まで
弓道（女子）	団体戦	予選まで
ハンドボール（男子）	１回戦まで	
ハンドボール（女子）	１回戦まで	
サッカー	２回戦まで	
テニス（男子）	団体戦	２回戦まで
	ダブルス	宇良・尾風　1回戦まで 古堅・大城　2回戦まで 新井・新地　1回戦まで
	シングルス	尾風　2回戦まで 宇良　1回戦まで
テニス（女子）	団体戦	２回戦まで
	ダブルス	仲里・武田　1回戦まで 永山・小濱　1回戦まで 小島・仲村　1回戦まで
	シングルス	仲里　1回戦まで 永山　2回戦まで
卓球（男子）	団体戦	２回戦まで
	ダブルス	２回戦まで
	シングルス	２回戦まで
卓球（女子）	ダブルス	１回戦まで
	シングルス	３回戦まで
陸上競技	—	予選まで
バドミントン（男子）	団体戦	２回戦まで
	ダブルス	伊差川・伊波　２回戦まで 大嶺・与座　２回戦まで
	シングルス	伊差川　２回戦まで 比嘉　１回戦まで
バドミントン（女子）	シングルス	上原　１回戦まで
自転車	チームスプリント	決勝出場
	ｲﾝﾃﾞｨｳﾞｨｼﾞｭｱﾙ･ﾛｰﾄﾞﾚｰｽ	青木　出場
	男子1KMタイムトライアル決勝	青木　出場　上原　出場　與儀　出場　呉我　出場

スナップ写真♪ 体育祭

平成 25 年度全九州高校総体結果について

平成25年度全九州高等学校総合体育大会自転車競技における結果は以下のとおりでした。
保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします。

競　技	競技結果
自転車	青木　ロードレース出場

平成 25 年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会の結果について

平成２５年７月１２日（金）～１５日（月），１９日（金）～２１日（日）の期間中開催された「平成２５年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会」において，本校から陸上競技部，バスケットボール部，ハンドボール部，水泳部，テニス部，硬式野球部，卓球部，男子バレーボール部及びバドミントン部が出場し，九州地区の各高専と対戦しました。

大会では各部ともに健闘し，日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。特に女子バスケットボール部は優勝，水泳部（女子）は５０ｍバタフライで第一位，１００ｍ自由形で第二位という優秀な成績を収め，全国大会に出場する運びとなりました。

競　技	競技結果	備考
バスケットボール（男子）	決勝トーナメント出場	第三位
バスケットボール（女子）	決勝トーナメント出場	優勝（全国大会出場）
ハンドボール（男子）	予選リーグ出場	
ハンドボール（女子）	オープン戦出場	
水泳（男子）	島袋　800m自由形入賞　100m背泳ぎ入賞	
水泳（女子）	濵元　50mバタフライ優勝　100m自由形準優勝	全国大会出場 濵元 50m バタフライ　100m 自由形
テニス（男子）	【団体戦】 一回戦まで 【シングルス】 酒井　二回戦まで／尾風　二回戦まで／宇良　二回戦まで／古堅　一回戦まで 【ダブルス】 酒井・新井　二回戦まで／古堅・大城　三回戦まで／宇良・尾風　一回戦まで／奥間・木村　二回戦まで	
テニス（女子）	【団体戦（リーグ戦）】 【シングルス】 仲里　一回戦まで／永山　一回戦まで 【ダブルス】 仲里・永山　一回戦まで／小濱・武田　一回戦まで	団体戦：第三位
野球	一回戦まで	
サッカー	平成２５年度不参加	
卓球（男子）	【団体戦】 予選リーグまで 【シングルス】 渡慶次　二回戦まで／吉田　一回戦まで／古謝（良）　一回戦まで／玉城　一回戦まで／古謝（秀）二回戦まで 【ダブルス】 古謝（良）・古謝（秀）　一回戦まで／渡慶次・玉城　一回戦まで	
卓球（女子）	【団体戦（オープン）】 沖縄　二回戦まで 【シングルス】 白久　一回戦まで／座間味　三回戦まで／町田　二回戦まで 【ダブルス】 町田・座間味　二回戦まで	
バレーボール（男子）	予選リーグまで	
陸上	新里　800m　予選4組出場	
バドミントン（男子）	【団体戦】 沖縄　一回戦まで 【シングルス】 大嶺　二回戦まで／俵　二回戦まで／上原　二回戦まで／伊差川　三回戦まで／伊波　一回戦まで／木村　一回戦まで 【ダブルス】 俵・福原　一回戦まで／大嶺・新川　二回戦まで／伊差川・伊波　二回戦まで	
バドミントン（女子）	【団体戦】 沖縄　二回戦まで 【シングルス】 久貝　三回戦まで／金城　一回戦まで／川満　一回戦まで／上原　一回戦まで 【ダブルス】 川満・當山　二回戦まで／上原・久貝　一回戦まで	

平成 25 年度人事異動について

＜4月1日付け異動＞

【採　用】総合科学科
教　授　星野　恵里子
総合科学科
講　師　飯島　淑江
総務課
図書情報係　新里　牧
学生課
看護師　髙江洲　文枝
【再雇用】機械システム工学科
特任教授　中本　正一朗
【転　入】事務部
部　長　仲地　善則
総務課
課長補佐（総務）　仲宗根　勉
学生課
課長補佐　吉原　安久
学生課
学生係　喜瀬　慎一郎
学生課
教務係　田中　徹
【昇　任】機械システム工学科
教　授　眞喜志　治
情報通信システム工学科
准教授　金城　伊智子
総合科学科
准教授　山本　寛
総務課
研究連携推進室主任　池原　智子
総務課
総務係主任　平良　直人
学生課
学生係主任　伊地　信人
技術室
技術専門職員　畑　亮次
技術室
技術専門職員　渡邊　謙太
【配置換】学生課
教務係　末吉　知恵美
【転　出】総務課
課長補佐　野原　茂
学生課
課長補佐　城間　弘充
総務課
図書・情報係長　大城　登樹子
学生課
教務係長　栗延　敏徳
学生課
教務係員　運天　誠
学生課
学生係員　城間　義尚

＜7月1日付け異動＞

【転　入】総務課
課長補佐（財務）　志堅原　智代
総務課
総務係長　髙山　大介
総務課
財務係主任　鹿川　和美
【配置換】総務課
研究連携推進室　前里　桂吾
【転　出】総務課
課長補佐（財務）　久保田　隆弘
総務課
総務係長　比嘉　桂
総務課
研究連携推進室主任　池原　智子
総務課
財務係長　増永　誠

＜8月5日付け異動＞

【採　用】総務課　石原　昌華

平成25年度(後期)行事予定表

10月

1	火	
2	水	消防訓練(予定)
3	木	
4	金	
5	土	県総体新人大会（テニス）
6	日	ロボコン九州沖縄地区大会(八代)
7	月	
8	火	学校説明会(那覇・塾関係者)
9	水	文化競技大会(学生会主催) キャリア講演会（２年生）
10	木	
11	金	
12	土	進学相談会
13	日	県総体新人大会(弓道) 全国高専プログラミングコンテスト
14	月	体育の日
15	火	月曜日の授業
16	水	第三回定期学生会議
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	TOEIC IPテスト(４年)
23	水	学生寮月例大掃除
24	木	TOEIC IP テスト（５年）
25	金	
26	土	地域清掃(学生会主催)
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	ハローウィンイベント(学生会主催)

備考
- 開寮　９月21日
- 開寮式　９月23日
- 後学期授業開始　９月24日

11月

1	金	
2	土	県高校新人体育大会
3	日	文化の日
4	月	振替休日
5	火	
6	水	月曜日の授業
7	木	月曜日の授業
8	金	臨時休業日
9	土	高専祭 学校説明会(高専祭)（予　定）
10	日	
11	月	臨時休業日
12	火	
13	水	学生寮月例大掃除
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	後学期中間試験 （複数同時実施科目）
19	火	
20	水	後学期中間試験
21	木	
22	金	
23	土	勤労感謝の日
24	日	ロボットコンテスト全国大会
25	月	
26	火	
27	水	予備日 研修旅行（３年）
28	木	予備日
29	金	予備日
30	土	

- 沖縄高専フォーラム（予定）

12月

1	日	
2	月	
3	火	
4	水	キャリア講演会（１年生）
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	推薦及び専門実習選抜願書受付
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	ツーデーマーチ(学生会主催)
15	日	学位授与試験（小論文）
16	月	
17	火	
18	水	キャリア講演会（２年生）
19	木	学生寮居室点検・清掃
20	金	
21	土	閉寮式
22	日	閉寮
23	月	天皇誕生日 寮整備・完全閉寮
24	火	冬季休業
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

- クリスマスツリー掲示(学生会)
- 構内美化清掃(学生会主催)
- ブックハンティング(学生会図書委員イベント)
- 冬の寮祭(寮生会)

1月

1	水	元旦
2	木	
3	金	
4	土	開寮
5	日	開寮式
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	本科推薦選抜試験
12	日	
13	月	成人の日
14	火	学習到達度試験(3年) 予備日
15	水	後期球技大会(学生会主催)
16	木	
17	金	推薦選抜判定結果通知
18	土	本科専門実習選抜試験 県総体新人大会(サッカー)
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	学生寮月例大掃除 合同企業説明会
23	木	専門実習選抜判定結果通知
24	金	推薦選抜確約書提出期限
25	土	
26	日	
27	月	学力及び帰国子女選抜願書受付
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	専門実習選抜確約書提出期限

2月

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	本科５年・専攻科後学期期末試験 予備日（本科１年～４年）
6	木	予備日(本科１年～４年)
7	金	本科１年～４年期末試験
8	土	
9	日	
10	月	本科５年・専攻科試験返却日 H26専攻科オリエンテーション
11	火	建国記念の日
12	水	
13	木	
14	金	臨時休業日
15	土	
16	日	本科学力及び帰国子女選抜試験
17	月	臨時休業日
18	火	臨時休業日
19	水	臨時休業日
20	木	学位授与機構へ専攻科単位取得証明書送付期限
21	金	１年～４年試験返却日 追認試験実施期間 本科学力選抜及び帰国子女選抜試験判定結果通知
22	土	
23	日	
24	月	１年生校長講話
25	火	４年生校長講話 学生寮居室点検・清掃
26	水	新専攻科１年校長講話 第４回定期学生会会議
27	木	終業式 閉寮式 学力選抜確約書提出期限
28	金	臨時休業日

- 構内美化清掃(学生会主催)
- 北部地域産学連携フォーラム（予定）

3月

1	土	寮整備・完全閉寮
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	入学説明会
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	卒業式 専攻科修了式
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	春分の日
22	土	
23	日	
24	月	学年末休業
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

- 教育・研究情報交流会(予定)

教務系行事　学生系行事　学生寮行事　学生会行事